

株静岡茶市場 一番茶総評

令和2年5月29日

一番茶取扱実績（5月28日現在）

【荒茶・本茶のみ】

	数 量 (kg)	平均単価 (円)	昨年同日対比	
			数 量 (%)	平均単価 (%)
県 内	771,732.2	1,554	84	97
県 外	333,111.8	1,507	77	82
合 計	1,104,844.0	1,540	82	92

【荒茶・仕上・全茶種合算】

	数 量 (kg)	平均単価 (円)	昨年同日対比	
			数 量 (%)	平均単価 (%)
県 内	855,491.6	1,453	83	97
県 外	506,760.4	1,228	78	82
合 計	1,362,252.0	1,369	81	91

本年度の県内産の一番茶の生産は、暖冬で早く芽は動いたものの、3月4月の冷え込みで芽伸びが抑えられ、平年並みのスタートとなりました。昨年同様低温と少雨の為、数量にまとまりを欠く生産が続きました。中部、中山間地の始まった4月下旬頃に寒の戻りがあり、多少の霜害を受けたことも数量がまとまらない原因となりました。その後も低温と少雨は続き、反収は前年より少なくなりました。好天が続き摘採が追い葉になり操業を休みながらの生産になりました。

流通面は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響をまともに受け、弊社新茶初取引などのイベントの中止や外出の自粛、また小売店も閉鎖し5月1日の八十八夜を挟んだ新茶の一番の需要期を失い、消費地（特に関東圏）からの注文が激減した為に、茶商は昨年以上に当用・選択・小口買いに徹し、小口の荷も販売に時間を要し、少しでも難のある茶は値が付かない場面も見受けられました。新型コロナの影響で葬儀等も縮小され、仏事の需要も減少し下物の価格を押し下げました。また、海外からの訪日客も無く、インバウンド需要にも大きな影響を受け、輸出も停滞してしまいました。

八十八夜以前は出回り量も少なく、価格は平年並みとなりましたが、年間相場の5月に入ってから、中山間地物などは色乗りが悪く、照りの少ないものが目立ち価格を下げる一因となりました。

東部遅場所が本格化した連休後半からは、オリンピック・パラリンピックの延期などの影響からかドリンク原料の需要が弱く、価格の下げ止まりは見られず700円を切るまで下げ続け、5月下旬の最終盤には500円を切る物もあり、近年にない価格まで落ち込みました。

弊社の取扱は4月の少雨低温で芽伸びが抑えられた為、各産地共に減少しました。また、価格の下落は例年になく早く、ミル芽での摘み取りを急いだことも減産の要因となり、工場、産地間の格差はあるものの10%~30%の減収になりそうです。その為、昨年来の価格低迷と高齢化で放棄、放任した茶園が今後も増加すると思われれます。また、東部を中心としたドリンク原料の契約化が進んだことも取扱数量の減少に影響しました。

価格は新型コロナの影響を受け、茶商は先行きに不透明感を持ちながらの仕入れとなり、平年の5~7割程度の仕入れとなった為、2年連での単価安となりました。

※一番茶期には弊社の新型コロナ感染症対策にご協力頂き誠にありがとうございました。しかしいまだ終息の兆しが見られないことから二番茶以降に関しましても同様の対策を講じてまいりますのでご協力をお願い申し上げます。